

## 第 8 回すばる小委員会議事録

日時：6 月 19 日（火）午前 11 時 10 分より午後 5 時(JST)

場所：国立天文台 北研究棟ひので運用連絡室(午前中)

解析研究棟 TV 会議室(午後) ハワイ観測所、京大と TV 会議接続

出席者：有本信雄、市川隆、伊藤洋一、岩室史英(TV 会議接続)、片坐宏一、  
土居守(午後 2 時以降)、浜名崇、山下卓也、山田亨(以上三鷹)、臼田知史、  
高遠徳尚、林正彦(以上ハワイ)

欠席者：小林尚人、高田唯史、定金晃三

書記：吉田千枝

### ●プリンストンとの協力について

プリンストンとの協議(6/7)報告 (所長)

追加資料：5/21 付け台長レター (Dr. Spergel 宛)

：6/7 プリンストン大との協議メモ

：HSC 製作スケジュール案

所長：現状では、HSC コアチームとプリンストンの共同研究になってしまっている。

きちんと日本のコミュニティを巻き込む必要がある。

委員長：6/7 の協議メモの新しい点は 100 夜保証する旨を明確にしたことだろう。

Q：プリンストン大との共同研究は何がゴールで、いつ終わるのか？

最低 100 夜というと、いつまでなのか期限を明確にしておかないと、ずるずる行ってしまう。

C：年限としては 5 年を日本側は考えているが、向こうは 5-10 年を考えているようだ。

こちらのゴールは HSC をすばるに搭載すること、向こうのゴールは 8M 望遠鏡へのアクセスを確保することだろう。

C：共同研究をするのは HSC の最初だけではないのか？

所長：今後の共同研究の枠組みを育てていきたいということだろう。

委員長：彼らは日本側と一緒に戦略枠に参加する。その戦略枠の終わりがゴールだろう。

C：紳士協定で「100 夜を戦略枠で」と言っているが、MOU(覚書)には 100 夜をプリンストンに供与すると書く必要があるだろう。

C：戦略枠には外国の機関は応募できないが、これからは資金を提供する外国機関が入れる

ことになるのか？プリンストンの場合が特別なら、そのことを明記しておくべきだ。

C：このような資金提供を今後も歓迎するのか？

複数委員：明確に反対だ。日本の大学がすばるを使えないことになる。

委員長：戦略枠が仮採択されてからでも、チームに加わることはできる。

C：戦略枠の策定を急いだのはこのためだ。日本の研究者のイニシアチブを確保した上で、プリンストンに加わってもらいたい。

C：ということは、戦略枠が採択されなかったら、プリンストンとの共同研究もなし、ということではないと困る。いつ 100 夜保証するという形に変わったのか？

委員長：HSC 搭載の資金を確保するために、所長が発案し、台長・所長・SAC 委員長の合意で 100 夜を提示した。資金提供を受ける以上は夜数の明示が必要だ。

C：カウント法はこれでいいのか？物品費と人件費は 1 対 1 にカウントするのが普通なので、半分の 50 夜にすべきだろう。100 夜という具体的な夜数についてはさらなる検討が必要ではないか？

所長：資金提供と人的貢献をきちんと分けて考えたい。

C：ひっかかる。お金を出せる海外の人がすばるを独占できることになる。

自分たちが獲得した科研費で装置製作をしているプロジェクトが気の毒だ。

C：日本の大学がいくらお金をかけて装置を作っても GT は 20 夜だ。外国の機関が資金供与すればそれに見合う夜数を使えるというのは公平性に欠ける。

所長：すばるは日本の税金で作られているので、日本のためにある。が、HSC をすばるに搭載するためにギブアンドテイクが必要だ。プリンストンが HSC だけでなく HiCIAO も使いたいと言っていることがひっかかるようだが、HiCIAO がなければ資金提供は減額されるということのようだ。

C：HiCIAO については、マンパワーとして助かる面もあり、HiCIAO チームとしては歓迎だそうだ。

委員長：MOU を書く時点(～1 年後)には、HiCIAO の戦略枠は採択か不採択かの結論が出ている(H18 年末)。

所長：戦略枠が不採択の場合は、所長裁量時間内でやりくりしなければならないが、MOU には書けることと書けないことがある。

C：実際にどうするか？と MOU にどう書くか？という二つの問題があると思う。

HiCIAO 何夜とは明示しないのが今の書き方だろう。

C：HiCIAO の戦略枠が通ったら、そのうち何夜がプリンストン分なのか？

所長：戦略枠提案が 20 夜採択されたとしたら、借金は 20 夜返したことになると考えている。

C：それを先方が了承するのか？

C：これはお金で観測時間を売るのでなく、紳士協定だ。だが MOU には夜数を明示しておく必要があるので、100 夜の中身を HSC と HiCIAO に分けて書く必要はないと思う。

所長：出版ポリシーを明確にしたい、と向こうから言ってくれたのは驚いた。

基本的には、共同研究による戦略枠で100夜を保証する、でいいと思う。

これは機関対機関の共同研究なので、プリンストンの人が1人でも含まれていればOKということになる。

委員長：SACとして心配な面を整理したい。出版ポリシーも含めて審査するが、

しっかりしたポリシーかどうかを判断するのであって、中身はサイエンスチームに任せる。後から加わる人の権利をきちんと考えているかどうかが大変だ。

C：共同研究プロジェクトの出版ポリシーが明文化された例を見てみたい。

委員長総括：プリンストン大学との共同研究に関しては、現状では100夜という夜数についてSAC委員間の合意ができていないので、夜数の件も含めて継続審議とする。

#### ●大内レポートについて

SAC委員のコメントを著者に返して、改訂を経て出版したい。

### 第1章 Our Galaxy and Local Group

C：銀河進化にとって新しい質のデータになる。

C：後世に残るサイエンスになる。WF MOS ができたら、地味だけれどやるべき仕事だと思う。

委員長：WF MOS で太陽系天体の外側で何ができるかをもう一度考えてみる必要がある。評価としては「良い」だろう（「良い、普通、悪い」の基準で）。

### 第2章 $z < 2$ での構造形成、銀河/銀河団の進化

C：近赤外線広視野カメラが何年後にできるかが重要だが、積極的に評価できる。

C：可視広視野カメラ（S-Cam）を我々は持っているのが強みだ。

C：COSMOS方式はどうか？すばるの可視広視野カメラを使わせる代わりに、近赤を使わせてもらうやり方。

C：視野が狭くて分解能が高いか、視野が広くて分解能は劣るか、どちらかの選択になる。

### 第3章 可視&近赤外銀河探査

C：サイエンスとしてはわかるが、すでに UKIDSS がやっている。現時点でこの装置があれば有力だが、出遅れの感がある。

C：着実なサイエンスだが、今世界中でこれをやっている。

## 第9章 可視・近赤外広視野深宇宙探査で明かす宇宙再電離と銀河形成初期

C：宇宙再電離まで行けば、物理分野にもアピールできる。

C：宇宙再電離は JWST がまさに最初にやろうとしていることだ。

C：JWST にデータ供給するという点では意味がある。JWST の深さには勝てないが、工夫次第で相補的なことはやれる。

C：近赤外視野だと、星形成の分野にも寄与する。

C：確かに 8M はサーベイ望遠鏡なのだろうが、基本的な汎用望遠鏡としての機能も残してほしい。

委員長：次回までに著者に返すべきコメントをまとめてほしい。

### ● TAC 改選について

委員長：光天連の推薦結果はまだ届いていないが、現委員の留任状況を確認しておきたい。

TAC 委員は 9 名だが、2 期 4 年務めたので今回退任する委員が 3 名、都合で留任が難しい委員が 3 名おり、6 名の新規委員が必要になる。

C：重責なので、すばるについて理解のある人を選ぶ必要がある。

C：SAC 委員と兼務する人もいてほしい。

### ● HSC コアチームとすばるコミュニティとのすり合わせ

HSC コアチームから、すばるコミュニティとの十分な意思疎通を図りたいという申し出があった。サイエンスは個々のグループごとでもいいが、共同研究の相談や出版ポリシーの相談はコミュニティがまとまって取り組む必要がある。

所長：共同研究がコミュニティ全体を巻き込まないまま進み始めていることを私も危惧していたところだ。

C：新しいグループを形成して、そこが共同研究の窓口になるとよい。

## ● 戦略枠の審査方法

委員長：審査をいつまでに行うか、決めておきたい。

戦略枠は S08B(2008 年 8 月～2009 年 1 月)からの実施となるので、そのためのタイムスケジュールを確認した。

第 1 段階 SAC と有識者(当該分野の TAC 経験者)による審査(足切り)

→2007 年 9 月 新 TAC 委員長も参加

第 2 段階 TAC と外部レフェリーによるサイエンスの審査

→外部レフェリーにプロポーザルを送付してコメントを得た上で、  
TAC がヒヤリングを実施する(2007 年 11 月)  
PI は組織作りを行う。

第 3 段階 SAC による審査 (組織評価を含む) →2007 年 11 月

第 4 段階 PI が観測計画を再提案し、SAC が最終判断を行う。

→2007 年 12 月 or 2008 年 1 月

第 1 次審査を行う有識者を 8 月上旬に決定し、夏休みにプロポーザルを読んでもらう。

有識者は各課題数名とし、2007 年 9 月の第 1 次審査会議は SAC 委員長が召集する。

第 1 次審査終了後、通過した提案をウェブで公開する。公募に関わる事務は共同利用担当が行う。

第 1 次審査会議(9 月の SAC) 日程調整

2007 年 9 月 25 日 (火) 11:00-17:00

\*\*\*\*\*

資料

- 1 大内レポートのレビュー(委員が各章を分担して担当)
- 2 HSC コアチーム相原氏からの台長・所長・委員長宛 e-mail
- 3 TAC 留任状況
- 4 すばる戦略枠 公募要項